１　べと病

Ａ　発生生態

１　子葉、本葉に発生する。葉に黄色の病斑を生じ、後に病斑の裏側に暗紫色のカビを生じる。降雨の多い多湿な条件下で発生が多い。肥料切れすると発生が多くなり、下位葉から中位葉にかけて発病しやすい。

２　分生子形成の最適温度は１９℃前後で、発芽の適温は２１～２４℃である。分生子は水滴があると発芽して、運動性をもった遊走子を生じ、別の葉に伝染する。そのため、葉に水滴が付着するような条件で、２０～２５℃前後の気温の時にはいつでも発生する。

Ｂ　化学薬剤以外の防除方法

１　排水と換気を良くし、過湿を防止する。

２　プラスチックフィルム等でマルチを行い、地表からの病原菌のはね返りを防止する。

３　肥料切れしないように適正な肥培管理を行う。

Ｃ　薬剤防除のポイント

１　発生前から定期的な予防散布を実施する。

２　薬剤散布は下葉及び中位葉を主体に葉の表裏に十分薬剤が付着するように行う。

農薬使用時はラベルをよく読み、記載された登録内容に基づいて使用するとともに、農薬の使用を指導する際は最新の登録情報を入手してください。

２　疫病

A　発生生態

１　幼苗、葉、茎、果実に発生する。いずれも、暗色水浸状の病斑を生じて軟化腐敗する。本病は短期間に急激にまん延するので、発生してからの防除は手遅れになりやすい。
２　本病原菌は、ウリ科作物のほかナス科作物にも寄生して被害を与える。
３　未熟果やつる先に発生しやすく、収穫後輸送中に発病することもある。
４　湿度が高いと発生しやすく、降雨が続く場合や密植、過繁茂の状態では発生が多くなる。
５　被害植物の組織中の菌糸や卵胞子が翌年の伝染源となる。

B　化学薬剤以外の防除方法

１　連作する場合は、ウリ科とナス科は相互に伝染源となるので、作物の選択に注意する。
２　かん水による病原菌のはね返りを防止するため、プラスチックフィルム等によるマルチを行う。
３　排水溝を整備し、高畦栽培をする。
４　果実には下敷きをし、果実が直接地表面に接しないようにする。

C　薬剤防除のポイント

発生前から定期的な予防散布を実施する。

３　うどんこ病

Ａ　発生生態

１　葉の表面にうどん粉をふりかけたような白色、粉状の病斑を生じる。一般に生育後期に発生が多く、葉の表面から発生し始めることが多い。激発すると、茎にも病斑を生じ、葉全体が白色のカビに覆われて、枯死する。

２　病原菌の生育適温は２５℃付近である。夜間の低温多湿で胞子が形成され、日中に風によって拡散するため、比較的乾燥条件で昼夜間の温度差が大きいときに多発する。

Ｂ　化学薬剤以外の防除方法

１　密植を避け、不要な老化葉はできるだけ除去し、通風採光を良くする。

２　ハウス、トンネル栽培では換気を良くする。

３　窒素質肥料の多用や偏った使用を避ける。

Ｃ　薬剤防除のポイント

１　発生を認めたら、直ちに薬剤防除を実施する。

２　ＤＭＩ系殺菌剤（ＦＲＡＣコード：３）は、連用すると薬剤感受性が低下しやすいため、他系統薬剤とのローテーション使用を行う。

４　褐斑細菌病

Ａ　発生生態

１　主に葉に発生するが、果実にも発生することがある。初め褐色で水浸状の小さな斑点を生じ、病斑が拡大すると中心部が破れやすくなる。やや低温多湿気味の時期に発生し、梅雨期や秋期に多発することが多い。

２　べと病の発生が本病を誘発する。また、風や害虫による食害痕、管理作業等による傷も本病を誘発する。

３　被害植物とともに土中で越冬し、翌年の伝染源となる。また、種子伝染もする。

Ｂ　化学薬剤以外の防除方法

１　ほ場の排水を良くし、ハウスやトンネル栽培では換気を良くする。

２　プラスチックフィルム等でマルチを行い、地表面からのはね返りを防止する。

農薬使用時はラベルをよく読み、記載された登録内容に基づいて使用するとともに、農薬の使用を指導する際は最新の登録情報を入手してください。

５　ウイルス病

Ａ　発生生態

１　カボチャのモザイク病は、スイカモザイクウイルス（WMV）とキュウリモザイクウイルス（ＣＭＶ）、パパイア輪点ウイルス（ＰＲＳＶ）及びズッキーニ黄斑モザイクウイルス（ＺＹＭＶ）によって引き起こされる。いずれもアブラムシの媒介によって伝染する場合が多い。

２　ハサミ等による汁液伝染も起こるので、管理作業の際は十分注意する。種子伝染、土壌伝染はしない。

モザイク病

Ｂ　化学薬剤以外の防除方法

１　施設開口部の防虫ネットによる被覆及びプラスチックシルバーフィルム等によりマルチを行い、アブラムシの飛来を防止する。

２　育苗期や栽培初期の発病株は速やかに抜き取り、植え替える。

３　芽かきや整枝の際に発病株に触れた手は良く洗ってから作業を行う。ハサミ等の管理器具は次亜塩素酸カルシウム溶液または第三リン酸ナトリウム１０％溶液で洗う。

Ｃ　薬剤防除のポイント

媒介虫の防除（ウリ類虫害の項参照）

ＷＭＶ、ＣＭＶ、ＺＹＭＶに対しては媒介虫（アブラムシ類）の防除を行う。

農薬使用時はラベルをよく読み、記載された登録内容に基づいて使用するとともに、農薬の使用を指導する際は最新の登録情報を入手してください。